

# 文芸きくち



## 万句の里俳句会 1月句会

ゆつくりと心豊かに冬至風呂  
峡に住む静寂の中の星月夜  
目覚しに初夢とられしまいけり  
山茶花の散るに任せて庭真赤  
遠景の連山透かす冬木立

宮本 敏子  
田中 美智  
隈部 輝子  
加藤 妙子  
宮本 雅子

## せせらぎ俳句会 1月例会

冬帽を目深に浮世遠ざける  
スマホ時代追羽根独楽も忘れられ  
振り返る平成の日々梅開く  
初夢に出し幼友息災や  
朝夕だけ賑わう路線粉雪舞う

五丁 義昭  
寺本 和子  
藤本 邦治  
森 正子  
藤本アツ子

## 旭志文芸教室俳句の会 1月詠草

観音を拝みて安堵の年の暮  
水鳥の水面に群れて動かさる  
阿蘇おろし吹きさらす田や冬ごもり  
度忘れの増して米寿の師走かな  
初雪や幸せありと里の山

稗田 達恵  
中尾ヨシコ  
芹川のり子  
水谷 ミネ  
芹川 蓉子

## 肥後狂句水笑会 1月例会

寝正月 寝ておりゃ銭も要らんけん  
ぼーっとして まあたふられたごたるふう  
ぼーっとして いつの間にやら高齢者  
お節に雑煮 嫁いで知った家の味  
寝正月 冬眠中で書いとらす

御手洗三代  
井手 水光  
柏原 乗仏  
宮上 美由  
山隈 好茶



## 七城短歌会 1月詠草

ヒツコツクの「鳥」のやうに川央を横一列に鳥が迫り来  
着脹れて出で来し今日の散歩道冷たい風に折々止まる  
水神に供えて一時間いまだ経たずに鏡餅二つ消ゆ  
低学年の祖父母が集う竹馬の乗り方教えに四苦八苦する  
早々の亡父の法事に写し回る小一の曾孫今日カメラマン

山田 博  
高木 精  
佐々 重弘  
嶋田 晴美  
緒方 寛子

## 「里」短歌会 1月詠草

初春の静も朝のストープに薬缶は白き湯気を立て居る  
呑みほせば屠蘇の冷気の厳かに歳古ることも喜びとなり  
両陛下野蒜を抜きて手のひらに白き玉根の光やさしも  
めでたきを伏せて一人居元旦に祈ればひそと蠟の火揺れる  
蒼穹に白き紗の雲流れさる吾に降りそそぐ光残して

山城 雅子  
宮本 淑子  
松本 和子  
桑野 睦子  
江頭 桂子

## 溪流短歌会 2月詠草

銀輪で群れて詣でる男の子たち一月一日午前三時に  
鞍岳の黄金に染まる雲の間に一瞬見えし初御来光  
はなやかな仕出しの重より祖母われの料理に箸出す孫ら競ひて  
平成がこのまま閉じて行くことを告げてか寂しい睦月の夕日  
寝て起きて歩く日課の一人居のあと幾度を春の陽に会ふ

岩根 博恵  
田中 遙子  
山田 弘子  
中川 愛子  
山城 雅子

## 菊池短歌会 2月詠草

残照の鞍岳山麓日昏れ雲山の煙となりて消えたり  
年頭の所感述べられそのいづれ聞こへよろしく異句同意かな  
水仙の香りはつかぬ厨にて掘りたての大根サラダに刻む  
ひとり住む百歳の母が湯を注ぐ見覚えあるブリキの湯たんば  
はえこみの鉤にかけりしウナギフナ心躍りし少年の夏

中川 愛子  
怒留湯健蓉  
安藤 則子  
川口すみ子  
古賀 勝士

【お詫びと訂正】広報2月号「菊池短歌会 1月詠草」の2句目に誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びして訂正いたします。

① 濁り酒ひそかに醸しるし叔父の浄き無類の思想を恋へり 怒留湯健蓉  
② 濁り酒ひそかに醸しるし叔父の浄き無類の思想を恋へり 怒留湯健蓉

万句の里俳句会  
せせらぎ俳句会  
旭志文芸教室俳句の会  
肥後狂句水笑会

井芹 ☎090(1342)2151  
藤本 ☎0968(38)4087  
中尾 ☎0968(37)2578  
山隈 ☎0968(38)2051

七城短歌会  
「里」短歌会  
菊池短歌会

佐々 ☎0968(24)3761  
木原 ☎090(5284)2418  
古賀 ☎0968(25)1764

入会希望など詳しくは、  
それぞれの句会や歌会  
にお尋ねください。